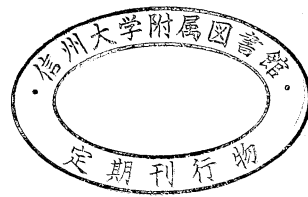


長野県松本市

松本城下町跡

*ISEMACHI*  
伊勢町 第26・27・28次

——平成13年度試掘調査報告書——



2002.3

松本市教育委員会

## 例 言

---

1. 本書は、平成13年度に実施した松本城下町跡伊勢町の埋蔵文化財試掘調査報告書である。
2. 本調査は中央西土地区画整理事業の個人店舗建設に伴う試掘調査で、国庫補助事業として実施したものである。
3. 本調査および本書の作成は、松本市教育委員会が実施した。
4. 平成13年度は3件の調査を実施した。このうち、本文では伊勢町第27・28次調査を報告する。
5. 本書の執筆・編集は澤柳秀利が行った。
6. 本書の写真撮影は、現場を調査担当者、遺物を宮嶋洋一が担当した。
7. 遺構番号は、各検出面ごとに1から付してある。
8. 出土遺物・図面・写真類は、松本市教育委員会が所有し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市 大字 中山3738番地1 Tel 0263-86-4710）が保管している。

## 調査体制

---

**調査団長**：竹淵公章（松本市教育長）

**調査副団長**：大沢一男（教育部長）

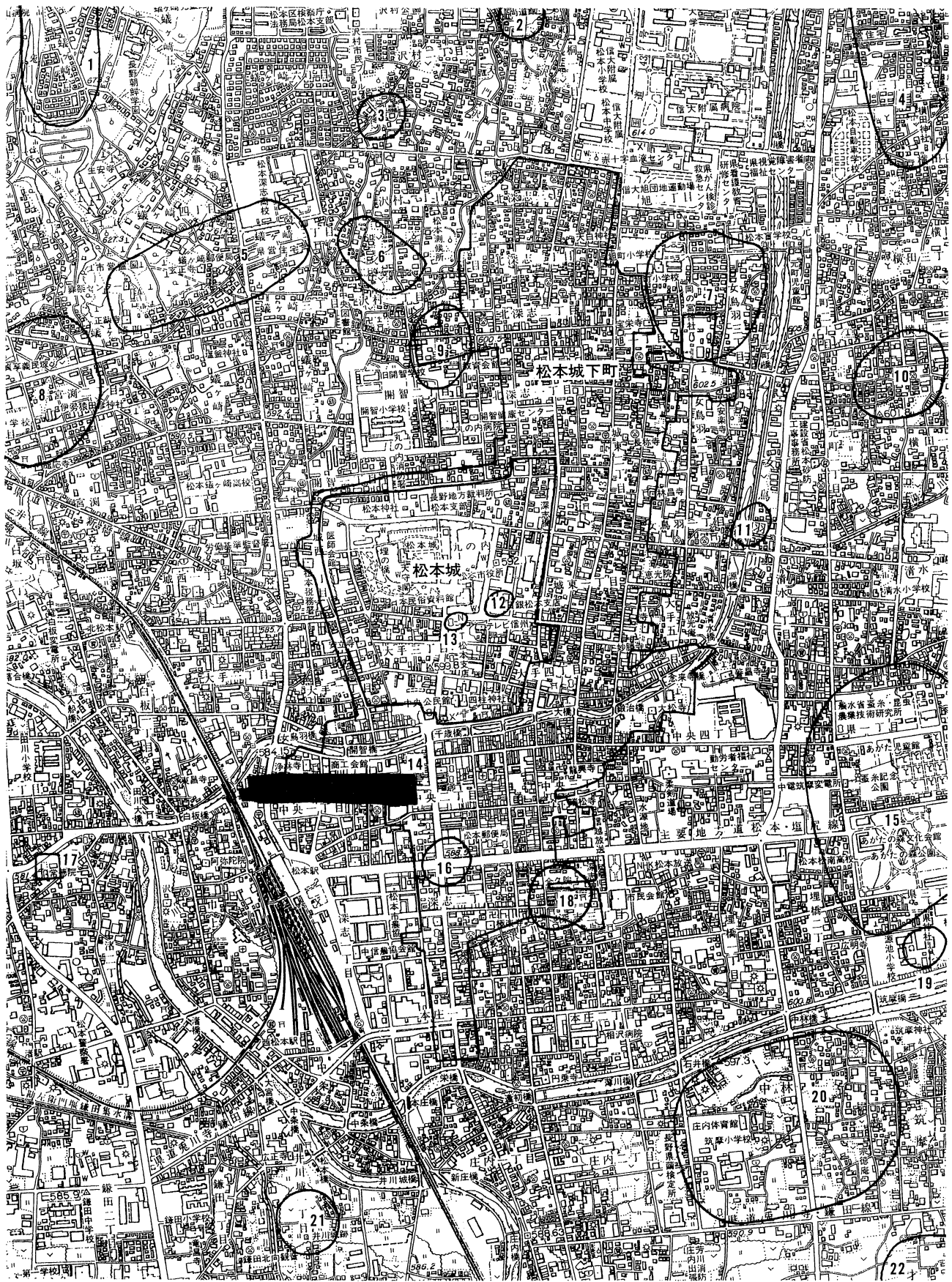
**調査担当者**：澤柳秀利、清水究

**調査員**：宮嶋洋一、森義直

**協力者**：荒井留美子、飯田三男、今村克、興喜義、北野智之、鷲見昇司、中上昇一、大月八十喜、中村恵子、  
布野行雄、布野和嘉夫、布山洋、山崎照友、渡邊順子

**事務局**：松本市教育委員会教育部文化課

有賀一誠（文化課長）、熊谷康治（文化課長補佐）、松井敬治（文化財担当係長）、武井義正（主任）、  
久保田剛（同）、渡邊陽子（嘱託）、塚原祐一（同）



- |          |          |          |             |           |           |          |                |
|----------|----------|----------|-------------|-----------|-----------|----------|----------------|
| 1: 峯の平遺跡 | 4: 大輔原遺跡 | 7: 岡の宮遺跡 | 10: 横田古屋敷遺跡 | 13: 大名町遺跡 | 16: 本町南遺跡 | 19: 埋橋遺跡 | 22: 三才遺跡       |
| 2: 元原遺跡  | 5: 蟻ヶ崎遺跡 | 8: 城山腰遺跡 | 11: 女鳥羽川遺跡  | 14: 伊勢町遺跡 | 17: 渚城址   | 20: 筑摩遺跡 |                |
| 3: 沢村北遺跡 | 6: 沢村遺跡  | 9: 田町遺跡  | 12: 丸の内遺跡   | 15: 県町遺跡  | 18: 天神西遺跡 | 21: 井川城址 | * 黒塗り部分が伊勢町の範囲 |

第1図 遺跡の位置



伊勢町第1～28次調査地点  
 本町第1～5次調査地点  
 全久院1～2次調査地点

第2図 中央西土地区画整理事業範囲内の調査地点

## I 平成13年度松本城下町の発掘調査概要

松本城下町跡の試掘調査は、平成13年度には3件実施した(第1表)。これらの調査はいずれも中央西土地区画整理事業地内の個人店舗建設に伴う緊急発掘調査で、国庫補助事業として実施した。これらの調査箇所は、松本城下町跡の伊勢町にあたる。各調査地点の概要は以下のとおりである。

### 伊勢町第26次調査

伊勢町西半部、通り北側の浄林寺門前であり、23次・24次調査地の対面にあたる。絵図によれば浄林寺門前と記されており、幕末期には飯屋となっている。調査の結果6面にわたる生活面を確認できた。2面からは鉄滓やふいご羽口が出土しており、鍛冶屋の存在が想定できる。絵図には表われないが、鍛冶屋が一時的に存在していたのかもしれない。浄林寺門前としての、特別な遺構・遺物の確認はできなかった。6面の下は、葦、芦などの植物遺体を含むシルト質土が堆積し、更にその下層では、河川による砂礫が堆積している。

### 伊勢町第27次調査

伊勢町西端部、通りの北側にあたる。この部分は、絵図によれば江戸時代後半までは伊勢町の範囲外となっており、幕末になってようやく描かれるようになった場所である。調査によって江戸時代の生活面を5面検出した。いずれも江戸時代後半以降に属する面であった。最下層の時期について、出土遺物から19世紀半ばであることが判明した。東側については、伊勢町西端に存在していた十王堂の範囲にも一部かかると思われたが、実態を明らかにすることはできなかった。十王堂は、現在のこまくさ道路敷の下になるとみられる。

### 伊勢町第28次調査

伊勢町西端部、通りの南側にあたる。本調査地は江戸時代末の絵図によれば、伊勢町西端にあった木戸の外、また南蛇川の外側にあたるため、いわゆる伊勢町の範囲外ではある。しかし、近代以降の面より下層から4面の江戸時代の生活面を確認した。建物裏手部分にあたったためか、建物基礎などの遺構は検出できなかったが、5面ではゴミ穴を検出した。このことにより、城下町の範囲が、全く絵図に表される線引きのみで区画されるのではなく、その周囲にも人家が建ち並んでいたという資料を得ることができた。

第1表 伊勢町調査一覧

調査次数	所在地	原因事業	調査期間	調査面積 (㎡)
26	松本市中央1-9-32,33	区画整理個人店舗建設	H13.4/12~4/19	159 (全5面)
27	松本市中央1-10-1,18	区画整理個人店舗建設	H13.5/7~5/15	164.4 (全3面)
28	松本市中央1-1-4	区画整理個人店舗建設	H13.9/17~9/21	50.5 (全5面)

## II 伊勢町第27次調査の概要

### (1) 伊勢町27次調査の位置

本調査は、松本市中央1丁目10番1、18号において、中央西土地区画整理事業に伴って実施した緊急発掘調査である。調査期間は平成13年5月7日～5月15日、調査面積は延べ164.4㎡(全3面)を測る。調査地一帯は、松本城下町跡の町人地である伊勢町にあたる。この伊勢町は、城下町のうち親町3町のひとつである本町から、西の飛驒国(岐阜県北部)に向かう野麦街道に沿って発展した通りである。伊勢町には、商家の他、鍛冶屋等の職人が多く住んでいたことが絵図等によって知られており、現在までに行われた発掘調査によっても実証されつつある。天正10年(1582)に小笠原貞慶によって深志城から松本城へと改称され、城下町も本町等親町三町を中心に整備された。その後、野麦街道沿いのこの通りも、城下町の一部に組み込まれていった。今回の調査地は、絵図によれば江戸時代中期には町屋が存在していない部分である。十王堂の外側にあたり、幕末期の絵図によってはじめてその存在が描かれている場所である。

### (2) 発掘調査の結果

#### ①層序

今回の調査は、開発基礎が現地表下3m以上まで及ぶため、遺構の存在する最下層まで掘り下げて確認することができた。その結果、1面～3面の整地層(生活面)及びその下層面を確認できた。(第3図)

#### ②検出された遺構

今回の調査で発見された遺構は、建物址1棟、土坑7基、ピット7個、炭化物範囲2ヶ所である。これらの、各面毎の主要な遺構について述べていく。

**第1検出面：**全体的に攪乱によって破壊され、深い建物基礎が掘り込まれており残存状況はあまり良くない。北側隅の部分から、炭化物の広がる範囲を2ヶ所確認したのみであり、何の痕跡かは不明である。遺物は陶磁器を中心に若干の出土がみられた。この面の時期については、19世紀末～20世紀初頭とみられる陶磁器片が出土していることから、近代以降の面であると考えられる。

**第2検出面：**1面と同様、上面にあった建物の基礎が深く掘り込まれており、調査区中央部については全く存在しない。北側部分からは、裏手のゴミ穴とみられる4土の他3基土坑が確認された。建物は、陶磁器片が若干みられたのみであり多くはない。この面の時期については、陶磁器などの遺物から判明して、19世紀代後半の幕末から近代初頭に属するとみられる。

**第3検出面：**1、2面と同様、上面にあった建物の基礎が深く掘り込まれている。北側部分からは、埋設された桶1ヶ所と土坑1基が確認されたが、用途については不明である。調査区南側部分から、グリ石の入った東西方向の布掘り基礎が1ヶ所確認できた。その南側からピットが7個検出された。簡易な構造の建物基礎ではないかとみられる。遺物の量は少ない。この面の時期については、19世紀後半とみられる陶磁器が出土していることから、幕末期にあたりとみられる。

**検出面下：**第3面の下層について、重機により深掘り調査を実施したところ、下層は女鳥羽川の氾濫による砂層が堆積し、更にその下は女鳥羽川系統の礫層が厚く堆積していた。

#### ③出土遺物

今回調査の出土遺物は、他の城下町の調査と同様、陶磁器片が主体を占める。2面の屋敷裏手部分にはゴミ穴も存在したが、内容物はほとんどがいわゆる木っ端などであり、遺物の出土はみられない。

陶磁器は、瀬戸・美濃産、肥前産がその大半を占める。染付碗・皿等の食器類が多く、中には焼き接ぎ、漆接ぎによる補修痕のみられるものもある。その他には火入れ、人形片といったものも出土している。木製品は、製品としては出土していない。金属製品は、銭貨として文久永寶(文久3年=1863年初鑄)が1点出土している他は、不明品が1点と少ない。

### III 伊勢町28次調査の概要

#### (1) 伊勢町28次調査の位置

本調査は、松本市中央1丁目1番4号において、中央西土地区画整理事業に伴って実施した緊急発掘調査である。調査期間は平成13年9月17日～9月21日、調査面積は延べ50.5㎡（全5面）を測る。この28次調査地は、前回27次調査地の向かい側に位置し、近世の絵図によれば、伊勢町として記載される範囲の外にあたり、厳密な意味からすれば伊勢町とはいえない場所ではある。しかし、野麦街道の松本城下町への入口にあたることから、こうした位置にも人家の存在が想定できる場所であるといえる。

#### (2) 発掘調査の結果

##### ①層序

今回の調査は、開発基礎が現地地表下3m以下まで及ぶため、遺構の存在する最下層まで掘り下げて確認することができた。その結果、1面～5面の整地層（生活面）を確認できた。（第4図）

##### ②検出された遺構

今回の調査では、建物址などの遺構はほとんどみられない。明治以降とみられる1面で建物の礎石を確認した以外には明瞭な建物址は確認されていない。5面においてゴミ穴を検出した以外には土坑・杭などが若干確認された程度である。しかし、これら2～5面は、いずれも明瞭な整地層を伴っていることから、この周辺は城下町範囲の外ではあるが、全く建物などが存在しない場所ではないという感触を得た。屋敷地のうち建物の裏手部分にあたりとみられる。ここでは、各面の状況について述べていく。

**第1検出面：**この面は現在の地表下40cmにあたる。調査面積は18㎡を測る。東端部において建物基礎の礎石を1個検出した。面としては良好に残存しているが遺構は少ない。遺物は陶磁器片を中心に若干の出土をみた。時期については、ガラス片も伴っているため、20世紀初頭以降近代の面である。

**第2検出面：**この面は調査区全体には広がらない。北東部分の一部のみ残存している。そのため、面として捉えるかどうかという問題もあるが、この面の下層には明瞭な整地がなされていることから第2面とした。しかし面的な調査は行っていない。遺物としては陶磁器片を中心に若干の出土をみた。この面の時期については、遺物から判断して19世紀後半以降の近代に属するといえる。

**第3検出面：**ここでは全面13.5㎡を調査した。検出した遺構はピット1個、杭1本、溝1条である。ピットは建物址の基礎である可能性がある。溝址は、この上面の2面の残存部に沿っており、2面と関連があるとみられる。遺物としては陶磁器片などが若干出土した。この面の時期については、遺物から判断して19世紀台の江戸時代後期に属すると考える。

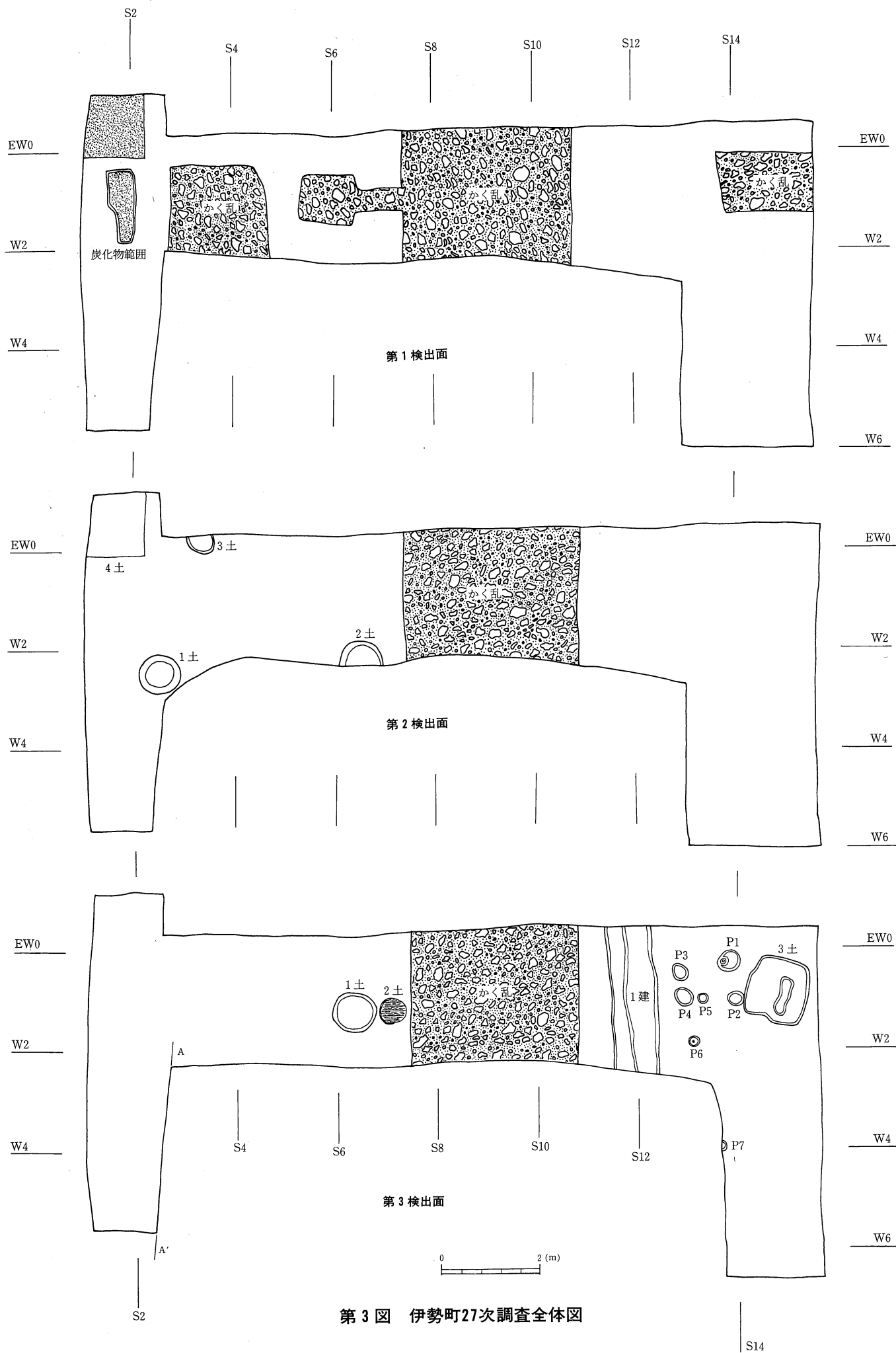
**第4検出面：**3面整地層の下層で確認された面である。10.8㎡を調査し得た。しかしここでは遺構を検出することはできなかった。面としては良好で、またその下層は整地されていることから、生活面の一つには違いないが、遺物の出土がないため、時期を特定することはできない。前後関係から19世紀台の江戸時代後期に属すると考える。ここは、建物部分ではなく、裏手の空間にあたる部分であるとみられる。

**第5検出面：**4面整地層の下層で確認された面である。8.2㎡を調査し得た。非常に狭隘な面積ではあるが、東隅から土坑1基が確認された。この面での遺構はこれのみであるが、1土はゴミ穴とみられ、陶磁器片の他、多量の木端とともに箸・曲げ物などの木製品が出土した。この面の時期は、19世紀初頭の江戸時代後期とみられる。

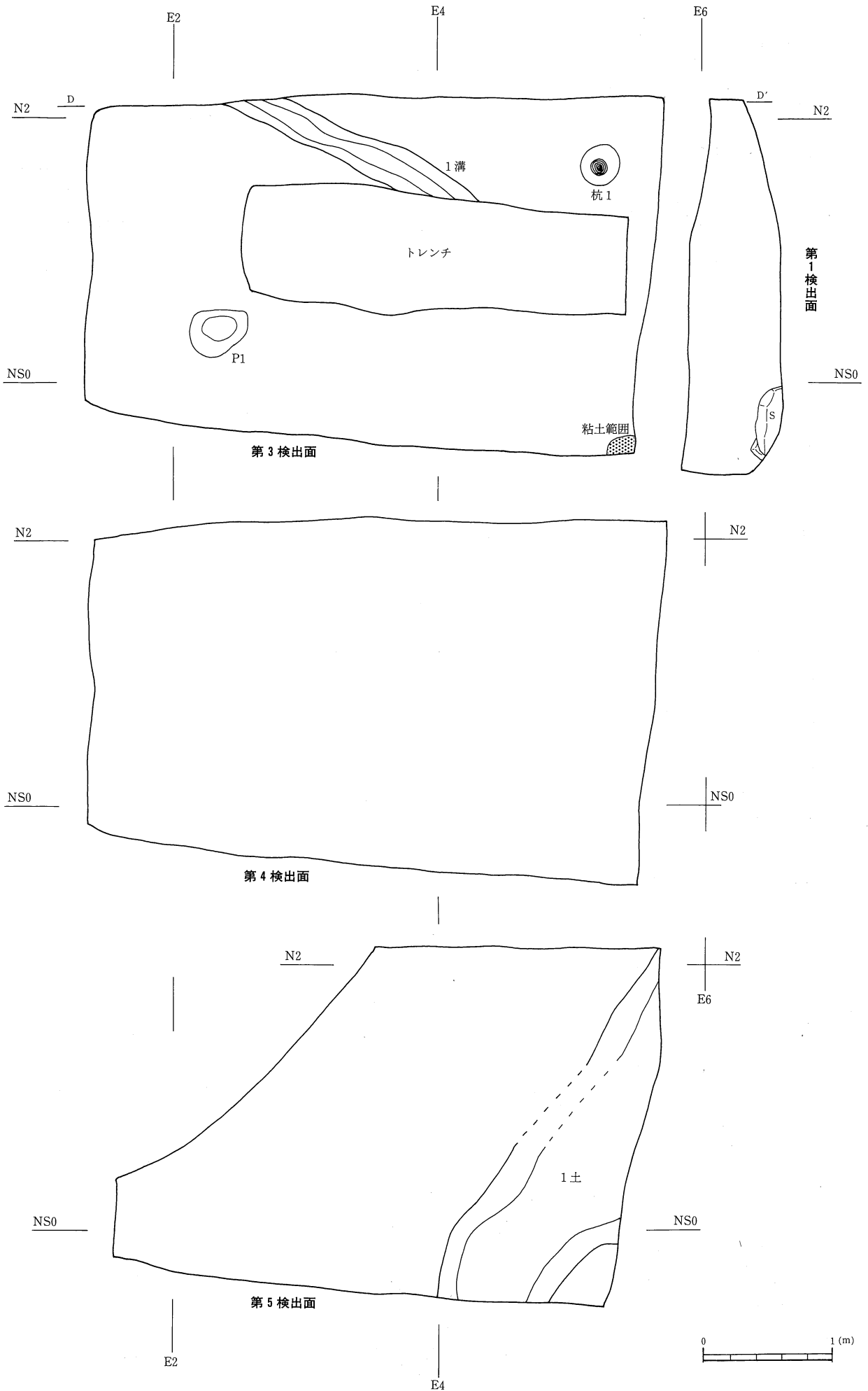
**検出面下：**5面の下を、重機を用いて深掘りしたところ、その下層は河川によるとみられる礫が厚く堆積しているのが確認できた。更にその下は、砂層と互層になっているのが、隣地での工事現場掘削断面によっても確認されており、河川による自然堆積となっている。

##### ③出土遺物

出土遺物は、調査区域が狭いこと、また建物裏手部分であったことなどのため量は少ない。陶磁器片、木製品が出土している。陶磁器は1～5面の各面でみられ、瀬戸・美濃産、肥前産が多くを占める。染付碗・皿、灰釉丸碗といった食器類が多い。木製品は、主として5面のゴミ穴からの出土品で、箸、碗などの食膳具や櫛などの装飾品がみられる。

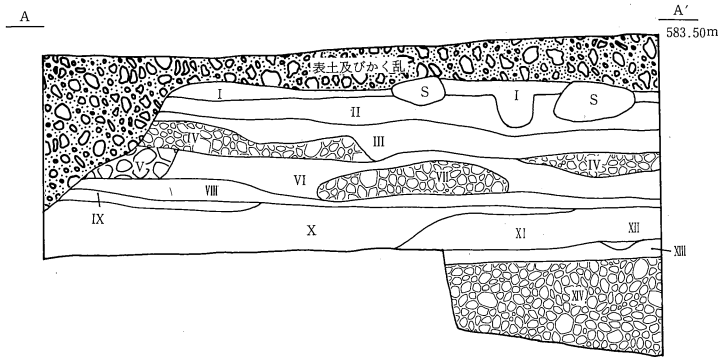






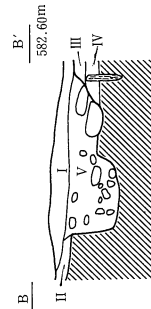
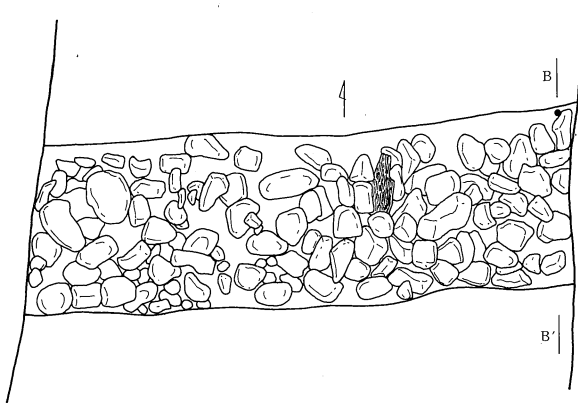
第4図 伊勢町28次調査全体図

第5図 伊勢町27次土層図



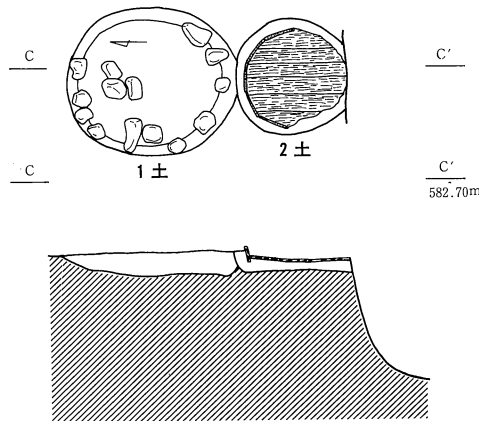
- I : 暗褐色土 (焼土粒・塊多量、炭化物粒混入)
- II : 暗灰褐色土 (炭化物粒混入)
- III : 茶褐色土 (炭化物粒混入)
- IV : 礫層 (整地層)
- V : 礫層 (建物基礎)
- VI : 暗灰色土 (炭化物粒・茶褐色土粒混入)
- VII : 礫層 (整地層)
- VIII : 暗灰色土 (炭化物粒混入)
- IX : 暗灰色土 (1~3cmφ礫少量混入)
- X : 灰褐色土 (茶褐色土粒少量混入)
- XI : 灰色土
- XII : 明灰色土
- XIII : 褐色土
- XIV : 茶褐色砂礫 (女鳥羽川系統の礫)

第6図 伊勢町27次3面第1号建物址



- I : 灰褐色土 (炭化物粒・茶褐色土粒少量混入)
- II : 暗灰色土
- III : 暗褐色土
- IV : 灰色砂質土
- V : 暗茶褐色土 (2~20cmφ礫混入=建物基礎グリ石)

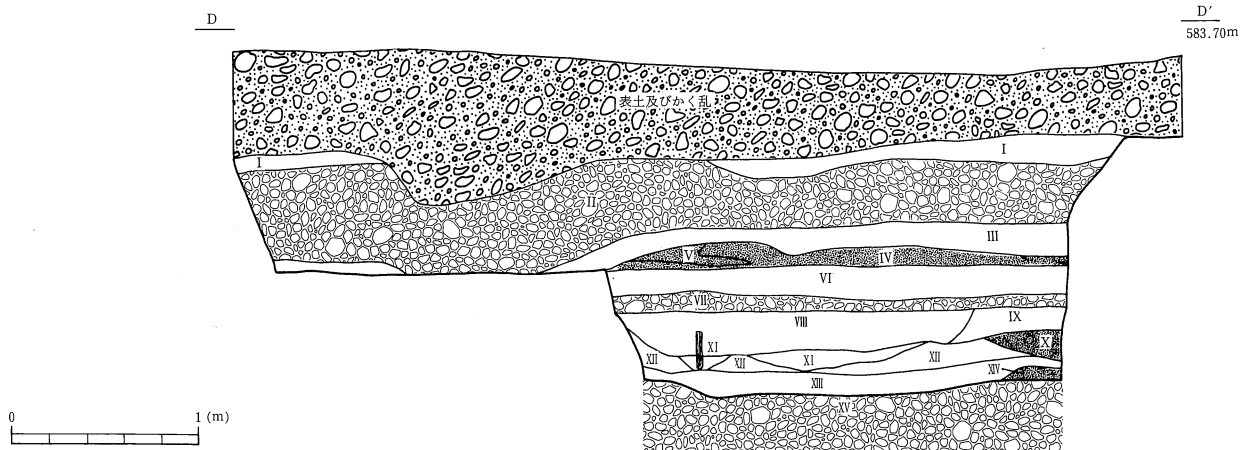
第7図 伊勢町27次3面第1・2号土坑



- 1土 : 暗褐色土 (1~5cmφ礫多量、炭化物粒微量混入)
- 2土 : 暗茶褐色粘質土

- I : 暗褐色粘質土 (炭化物粒、1~3cmφ礫少量混入)
- II : 黄褐色砂礫 (1面の整地層)
- III : 灰褐色粘質土 (炭化物粒・焼土粒少量混入)
- IV : 灰褐色砂層 (2面整地層)
- V : 黄褐色砂質土 (炭化物粒・焼土粒混入)
- VI : 暗灰色粘質土 (炭化物粒少量混入)
- VII : 黄褐色砂礫 (3面整地層)
- VIII : 暗灰色粘質土 (炭化物粒・木片少量、茶褐色土粒混入)
- IX : 暗灰色粘質土
- X : 茶褐色砂質土 (木片混入)
- XI : 明黄褐色土 (茶褐色土粒少量混入)
- XII : 灰褐色粘質土
- XIII : 暗褐色粘質土
- XIV : 明灰褐色砂層
- XV : 灰色礫層 (地山)

第8図 伊勢町28次土層図



## IV まとめ

平成6年度から行われてきた、松本市中央西土地区画整理事業による伊勢町の発掘調査も28次を数えることになり、今年度の調査をもって一つの区切りを迎えることとなった。当初は伊勢町の中心部分の調査を行ってきたが、区画整理事業の進捗に伴い、調査箇所もだんだんと西側一城下町外れ一に近づいていった。今回、本書にて報告した2ヶ所の調査は、伊勢町の西端部にあたり、城下町と農村部の接点というべき位置の調査となったといえる。

今回行った27、28調査地は飛驒と松本を結ぶ野麦街道の松本城下町入口部分であり、伊勢町の中でも、最も後になって開発がされた場所であるといえる。このあたりについては、平成8年に4次調査を実施しているが、そこは城下町伊勢町の範囲外であるため、遺構・遺物ともに確認されていない。今回報告の27、28次調査地も、伊勢町の外れにあたり、特に28次調査地は絵図の範囲外である。伊勢町のこのあたりは、絵図によれば城下町の中でありながら年貢地と記載されている場所である。つまり町人地ではなく百姓地ということになる。この地の住民が実質的な農民であるかどうかは不明だが、課税上はわざわざ「年貢地」と記されているわけである。

今回報告した27次調査は、江戸時代末の絵図になってはじめて家並みが描かれている場所である。すぐ東側は、絵図によれば十王堂が存在していた場所である。十王堂は、松本城下町においてはその東西南北4ヶ所の入口部分に存在し、東は餌差町、北は安原町、南は博労町にあったとされる。餌差町以外のものは、小堂が存在するのみか、安原町のものについては痕跡も残っていない。伊勢町の十王堂もその最西端部に近年まで小堂があったが、区画整理事業により中央1-9、浄林寺の脇に移転している。調査の結果は、最下層においても、溯っても19世紀半ばから後半であるという結果が得られた。3面において確認した規模の大きい布基礎掘りの建物を、十王堂の一部ではないかと考えたが、遺物などからそれを実証することはできなかった。このあたりの新しい町並みは、その実年代を特定することはできないが、幕末近くになって、流入などによる人口増の対策ではないだろうか。

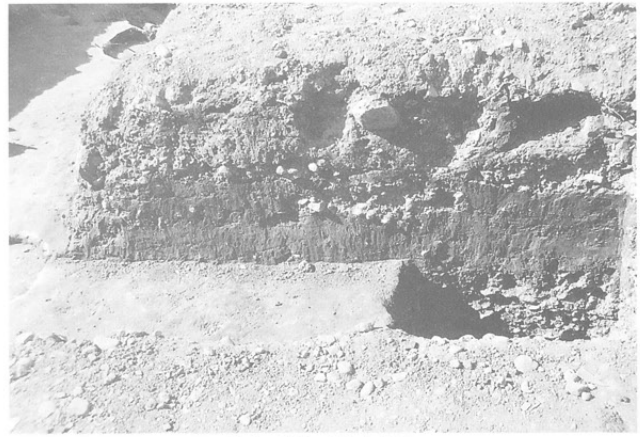
28次調査は伊勢町を区画する南蛇川の外側である。これは伊勢町の外側であることを示している。各時代の城下町の描かれている絵図にも、このあたりが城下町範囲の外であるためか記載はされていない。幕末の絵図においても同様である。しかし調査の結果では、上面こそ近代以降の面であり、また建物基礎などの遺構も確認できなかったが、ゴミ穴など、家並みがあったことを示す資料が得られた。向かい側の4次調査では江戸時代の遺構・遺物はみられないが、これは女鳥羽川の影響があるのかもしれない。こうしたことから、伊勢町西端部のこのあたりは、野麦街道沿いの郊外と城下町との接点であると考えられ、少なくとも江戸時代後半には、町屋自体は街道沿いに連なっており、城下町伊勢町と在との境は便宜上設けられた木戸であった。とはいえないだろうか。

以上、今回の調査で明らかになってきたことについて簡単にまとめてみた。十王堂の位置もいまだ不明であるなど、まだこのあたりについては分からない点が多いのが実状である。絵図などと照らし合わせた調査をもう少し進めていかなければならない。

最後になりましたが、これらの調査に際して多大なご協力を頂いた地元の皆様、調整に奔走して頂いた中央西整備本部、狭隘な現場にも関わらず作業に従事して頂いた皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



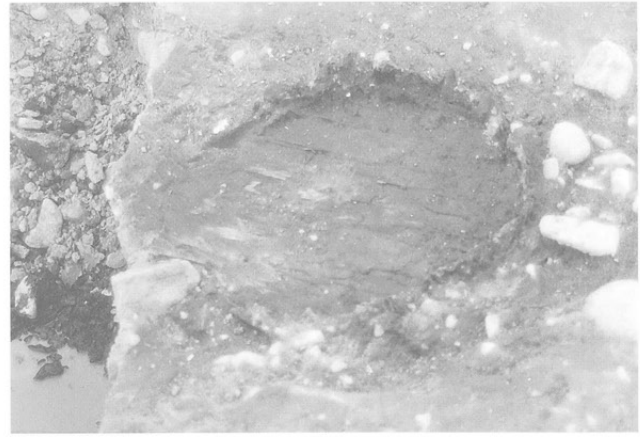
調査開始前（南から）



基本土層（北から）



第1面全景（南から）



第2面検出の埋設桶



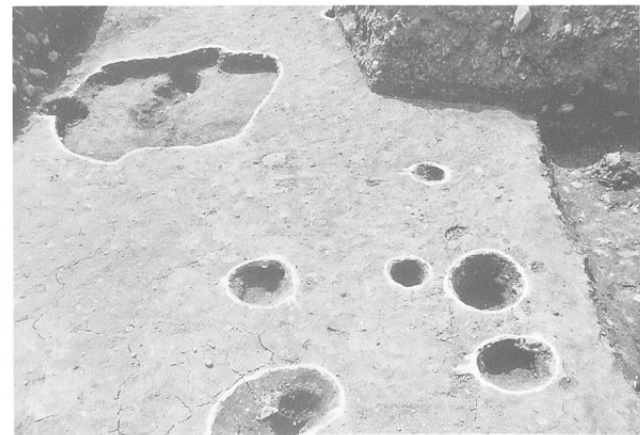
第2面全景（南から）



第3面第1号建物址（東から）



第3面全景（南から）



第3面ピット群（東から）

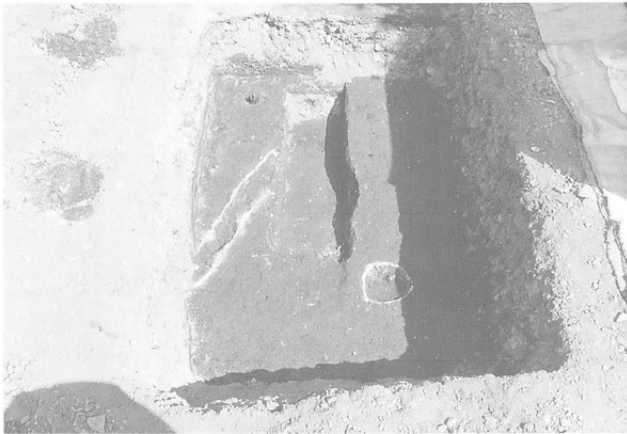
図版1 伊勢町27次調査遺構



調査開始前（北西から）



基本土層（西から）



第2面全景（東から）



第2面で出土した杭



第4面全景（南から）



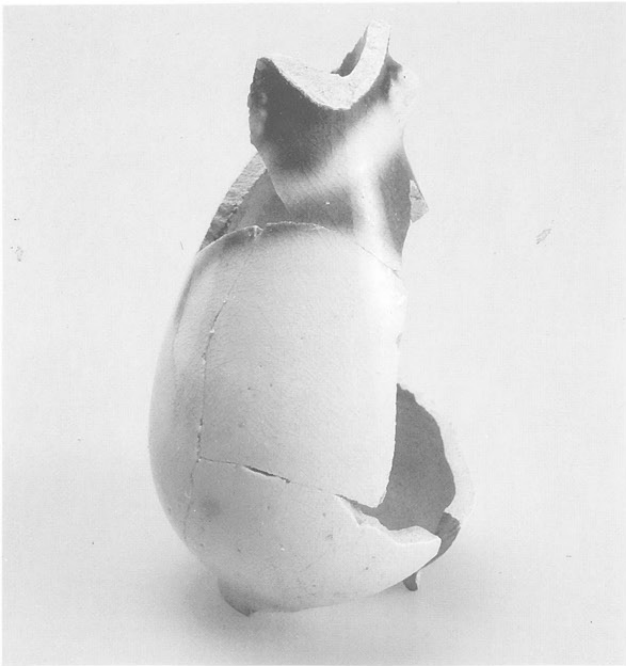
第5面全景（東から）



第5面で確認した1土：ゴミ穴（西から）



同左断面



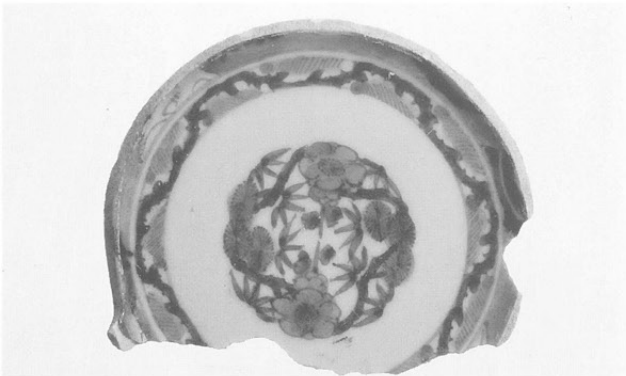
伊27 1面出土 瀬戸・美濃系の花入れ 19世紀



伊27 2面出土 瀬戸・美濃系灰釉碗 18世紀末～19世紀初頭



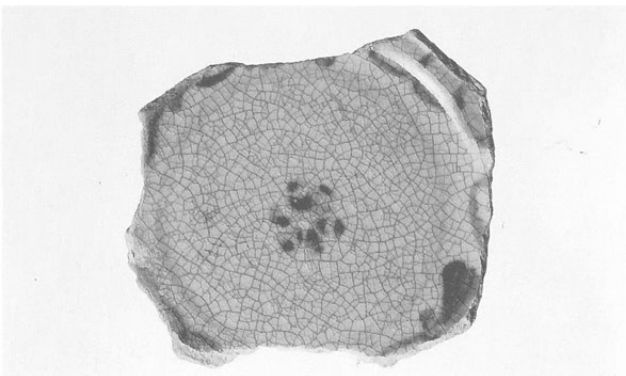
伊27 3面出土 肥前産染付湯飲み碗 18世紀前半



伊27 1面出土 肥前産染付皿 焼き接ぎ痕あり 18世紀後半



伊28 2面出土 瀬戸・美濃系染付皿 19世紀中頃



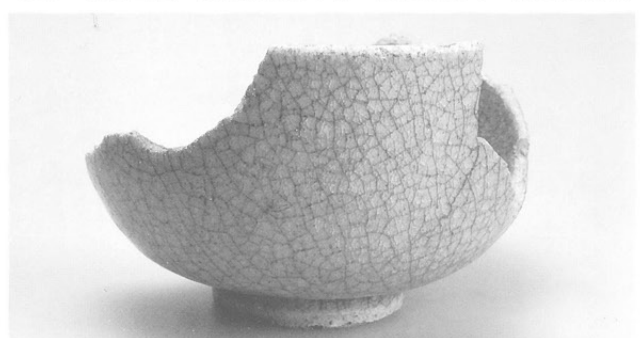
伊27 1面出土 瀬戸・美濃系陶胎染付皿 19世紀前半



伊28 5面出土 肥前産染付小杯 17世紀後半～18世紀初頭



伊27 1面出土 文久永寶 1863年初鑄



伊28 5面出土 瀬戸・美濃系灰釉丸碗 18世紀後半～19世紀初頭

図版3 伊勢町27・28次調査遺物

松本城下町跡 伊勢町26・27・28次試掘調査報告書抄録

ふりがな	まつもとじょうかまちあと いせまち							
書名	松本城下町跡 伊勢町26・27・28次試掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.163							
編著者名	澤柳秀利							
編集機関	松本市教育委員会（松本市立考古博物館）							
所在地	〒390-0873 長野県松本市丸の内3番7号（松本市大字中山3738番地1 Tel0263-86-4710）							
発行年月日	平成14（2002）年3月29日（平成13年度）							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
	ながのけん 長野県 まつもとし 松本市	市町村	遺跡番号					
		20202	157	36度 13分 48秒	137度 58分 02秒	H13.05/07～ 05/15	164.4 (全3面)	中央西區画整理
まつもとじょうかまちあと 松本城下町跡 いせまち 伊勢町27次	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	城下町	近世～近代	建物址 土坑 ピット	1棟 7基 7個	陶磁器：瀬戸・美濃、肥前系 金属製品：銭貨 (文久永寶、寛永通寶)		城下町の拡張された部分 の調査、拡張時期は19世 紀半ば以降であると判明 した。	
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
	ながのけん 長野県 まつもとし 松本市	市町村	遺跡番号					
		20202	157	36度 13分 47秒	137度 58分 02秒	H13.09/17～ 09/21	50.5 (全5面)	中央西區画整理
まつもとじょうかまちあと 松本城下町跡 いせまち 伊勢町28次	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	城下町	近世～近代	土坑 ピット 溝	1基 1個 1条	陶磁器：瀬戸・美濃、肥前系 木製品：箸、漆碗、櫛、曲物		城下町外れの調査、城下 町の範囲外にも家並みが 存在したことが明らかにな った。	

松本市文化財調査報告 No.163

松本城下町跡

伊勢町26・27・28次

— 平成13年度試掘調査報告書 —

発行日 平成14年3月29日

発行者 松本市教育委員会

〒390-8620

長野県松本市丸の内3番7号

印刷 藤原印刷 株式会社

